

レースにあたっての審判上の諸注意

平成 30 年度 全国高等学校総合体育大会ボート競技(2018/7/30—8/2 愛知池漕艇場)

今大会は、日本ボート協会競漕規則と大会要項、および以下の諸注意とこの代表者会議での指示決定事項に基づいてレース運営を行う。注意してレースに臨むこと。

1. 健康について

各クルーは健康管理に十分注意を払い、万全の状態でレースに参加できるよう心がけること。非常に厳しい暑さでの大会になるため、熱中症の対策を怠らないよう水分補給を十分に行うこと。体調が悪くなった場合は、設置されている救護所を利用し、また、水上で気分が悪くなった場合については、無理せず最寄りの審判員やその他の役員に必ず申し出ること。

2. 事故防止と安全確保について

- ① 各クルーおよび参加者は事故のないよう常に安全確保に努め、安全第一で行動すること。第一に各クルーが自主的な安全対策を十分に施すように心がけること。
- ② レース前の練習では、審判員等の目が行き届かない場合があるため、練習水域においても周囲の安全確認を行い、航行ルールを守って十分に注意しながら練習を行うこと。会場内において決められた練習水域以外での練習は禁止である。風や波、急な天気の変化にも注意し、大会本部等から指示がある場合は、これに従うこと。
- ③ 回漕中(栈橋から練習・発艇水域へ向かうとき、およびレース終了後に栈橋に向かうとき)、レース艇の 100m 手前で停止すること。これに違反した場合は「警告」を与える。十分注意すること。
- ④ レース中、クルーの安全が確保できない状況や危険が生じた場合、もしくはそれが予想された場合、当該クルーを停止させる、または、レース自体を中止することがある。

3. 各種手続き（届け出）について

- ① 棄権・メンバー変更・ブレード変更（不統一）の届け出や願い等の手続きは、定められた時間までに競漕委員会にて所定の手順に従って行うこと。但し、1 日目は監視を受ける前までに必ず行うこと。
- ② シート変更（漕手間の変更）については事前の届出は必要ない。監視の際に申し出ること。

4. 監視と舵手計量について

- ① 大会 1 日目（予選）の監視は、配艇場内に設置された所定の監視所と栈橋で行う。出漕するレースの 2 時間前から 1 時間前までに、レースに出漕する服装でオールを持参し、クルー全員で監視所へ来ること。4 × + については、その際に舵手計量についても行う。
- ② 2 日目以降の監視は、レース毎に出艇時の栈橋で行う。監視を受けずに出艇することはできない。
- ③ 舵手の計量は、毎日、出漕するレースの 2 時間前から 1 時間前に監視所（舵手計量所）で行う。
- ④ 大会 1 日目（予選）の監視を規定の時間内に受けなかったクルーは除外とする。また毎日の舵手計量については規定の時間内に行わない場合は失格とする。時間を厳守すること。なお、これらの件に関する呼び出し放送は行わないため、各クルーで十分に注意すること。

5. ユニフォームの統一について

- ① 各クルーとも統一したユニフォームを着用して出漕すること。アンダーシャツ・タイツ等も統一すること。色あせによる不揃い、不鮮明なクルー名表記などは不可である。
- ② 帽子・はちまきの着用についてはクルー内の選手毎に自由であるが、着用する選手については、必ず統一したものを着用すること。

6. コースへの進入について

直前に発艇したレース艇が 100m 付近を通過した後、発艇員は次のレースのクルーに対してコース内への呼び込みを行う（呼び込みを待つクルーはスタート横の待機水域で待機しておくこと）。また、呼び込みを受けたクルーは、速やかに自己のレーンに進入すること。

7. 発艇定刻の厳守と発艇について

- ① 出漕クルーは発艇定刻2分前までに所定の発艇位置（ステイクボート）に着けなければならない。特段の事情がない限り、これに遅れた場合は警告を与える。艇の故障等の事態が生じて間に合わない恐れがある場合は、必ず最寄りの審判員に申し出て指示を受けること。許可なく遅れた場合は、当該クルーを待つことなく発艇し、そのクルーは失格となる。
- ② 発艇定刻2分前になったとき、各クルーはいつでも発艇できるよう準備し、各クルーの責任で進行方向を定めること。風波等の状況によってクイックスタートで発艇する場合もある。

8. レース中の注意について

- ① スタート直後を含め、レース中での艇の故障およびオールの破損等について特別な救済措置はとらない。またこれに関する異議も認めない。故障や不具合が生じないように、十分に点検しておくこと。
- ② すべてのクルーは自己のレーンを進行し、他のレーンへの侵害や、他艇の妨害をしてはならない。主審はレース中に、障害物の出現や接触・衝突等の危険が生じたクルーに対して白旗を掲げ「〇〇止まれ！」等のコールをすることがある。この場合、必ず主審の指示に従うこと。
- ③ 主審艇はレース状況により、遅れたクルーを追い越すことがある。この場合、追い越されたクルーは波をかぶることもあるが、自己の責任として堪え忍ぶこと。

9. レース中のシングルスカル選手の落水について

- ① シングルスカル選手がレース中に落水した場合、速やかに自力で乗艇し、決勝線を通過すれば着順を認める。ただし、自力での乗艇に手間取り、次のレースに支障が生じるか、もしくは安全上の問題があると審判員が判断した場合には救助を行う。この場合は途中棄権となるが、安全が第一であるため了解すること。
- ② 万一の落水時、ストレッチャーから足が抜けず、危険な状況も想定される。適切な長さでヒールロープを結んでおき、さらに靴ひもを締めすぎないように注意すること。

10. 警告・除外とその取り扱いについて

- ① 大会期間中、航行ルール違反の場合も警告の対象となる。また、あらかじめ定められていない事項でも、審判が警告対象と判断し、警告を与えることがある。
- ② 何らかの警告を受けたクルーがフォルススタートをした場合は除外となる。また、同一競漕中に2度のフォルススタート行う、または、2回の警告を受けたクルーは除外となる。
- ③ 予選において、スタート前やスタート直後、およびレース中に除外を適用されたクルーは、他クルーとの公平を期すため、予選レースで全距離を漕了させる。なおこの際に、まじめな態度でかつ正常な競漕速度で漕了しなかった場合や、他艇に対して接触・妨害を起こした場合は当該クルーを失格とする。
- ④ クルーが受けた警告は、レースが成立した時点ですべて解消するが、レース成立後の回漕中等に警告を受けた場合、その警告は次レースに持ち越される。

11. レース終了後について

- ① 決勝線を通過したクルーは、全クルーが通過し、主審が旗を掲げるまでゴール付近で待機すること。
- ② 決勝線を通過後、レースに対する異議がある場合は、主審が旗を掲げる前に挙手をして主審に申し出ること。主審から白旗があがった場合はレース成立を意味するので、そのまま出艇時の桟橋に戻る。ただし、赤旗が揚がった場合は、レース中に何らかの問題があったことを示しているため、その場にとどまり、主審の指示を待つこと。なお、主審は状況によって決勝線の手前で旗を掲げる場合もあるため、しっかりと注視しておくこと。

12. その他

- ① 無線通信機器（携帯電話・トランシーバー等の外部と通信できるもの）の艇内持ち込みは厳禁である。これに違反した場合は、失格となるため注意すること。